

第9回国際学術フォーラム開催報告 —仏教ソーシャルワーク探求の旅、その先へ— ～なぜ世界は仏教ソーシャルワークを無視できないのか～

2月15日、「仏教ソーシャルワーク探求の旅、その先へ」をメインテーマとし、淑徳大学東京キャンパス9号館において第9回国際学術フォーラムが開催されました。今回は、仏教ソーシャルワーク研究叢書シリーズ(全11巻)をすべて刊行した今、弊所がシリーズを通じて積み上げてきたものをあらためて見つめつつ、その先の一步について、国内外からの参加者の方々に問いかけていくフォーラムとなりました。会場参加者として24名、オンライン参加者として67名の方々がご参加下さいました。ご後援いただきました日本仏教社会福祉学会、日本ソーシャルワーク教育学校連盟をはじめ、ご協力・ご参加いただきましたすべての皆様に厚く御礼申し上げます。

まず、アジア仏教社会福祉学術交流センター長 藤森雄介より「仏教ソーシャルワーク探求の旅、途上の報告～説明趣旨にかえて～」で、これまでの経緯と今後への期待が述べられました。続いてフォーラム基調講演において、国際ソーシャルワーク学校連盟(IASSW)元会長 Abye Tasse 氏より、「国際ソーシャルワークは脱グローバル化するのか？」について貴重なお話を頂戴しました。講演は、弊所の秋元樹名誉所長と、彼の国際ソーシャルワークに関する著書に刺激されたものであり、仏教ソーシャルワークが今後どのようにソーシャルワークのメインストリームに貢献できるのかを探る貴重な示唆を、氏よりいただきました。後半は、淑徳大学大学院総合福祉研究科教授 郷堀ヨゼフ教授より「仏教ソーシャルワーク研究を通して見えてきたものとは？」を、続いて弊所所長 戸塚法子から「ソーシャルワークは仏教からなぜ目が離せないのだろうか」に関し、それぞれ発題がなされました。その後指定発言として、龍谷大学の栗田修司氏、東北大学の井川裕覚氏より、刺激的な問題提起をいただきました。終盤、オンライン、会場の参加者から活発な質問が寄せられ、登壇者とのやりとりがなされました。その後、松尾加奈 上席研究員による全体のまとめが行われ、盛況のなかで終了いたしました。



◆アジア国際社会福祉研究所のニュースがSナビにて月1回程度配布されております。